おはようございます。昨年に引き続いてコロナ禍での生活となりましたが、1年の締めくくりの日を迎えることができました。初めに自粛生活を強いられたときは、頑張って我慢して生活してるぞという感じでしたが、不思議なもので、この生活にも慣れ、今の状態が逆に通常の生活のように思えてしまっている自分がいます。この慣れが良いのか、悪いのか。先週の日曜日、飛鳥ハーフマラソンに出場しました。自分のほかに、下井先生、寺下先生、大正谷先生、古芝先生、橋本先生と今月卒業した生徒3名が出場しました。キトラ古墳をスタートし、約21ｋｍの道のりを全員無事に完走しました。その飛鳥ハーフマラソンに参加して感じたことをお話しします。

この大会には約3000人が参加をしていました。まず、これだけ大勢の中にいることだけで、ドキドキしている自分がいました。スタート時、前後左右1ｍほどの間隔で整列し、スタートまでは不織布のマスクの着用をということで皆さんしていましたが、人混みのなかでドキドキ。スタートと同時にみなさんマスクを外します。マスクなしの人たちの中でドキドキ。現在の生活に慣れてしまって、このような状況にドキドキしちゃう体になってしまった自分。先ほど、この生活が通常の生活のように思えているといいましたが、いかに今の生活が異常な状態であるかということに改めて気づかされました。

ただ、我慢を強いられている生活と思っていたのが、別に普通だな思えていること、これは良い慣れであると思っています。初めはつらかったことが、毎日コツコツ積み重ねると平気になってくる。これは別のことでもいえることであると思います。勉強のことであったり、部活動のことであったり、そしてルールを守ることであったり。しかし、積み重ね方によっては、悪い方向にも積み重なってしまいます。是非とも良い方向に積み重ね、自分を高めていってほしいと思います。

春期休業に入りますが、コロナ禍であることは変わりありません。不要不急の外出を避けること、マスクの着用、手指の消毒を徹底し、全員が新年度の始業式で新たな学年となり新たな気持ちでスタートできることを楽しみにしています。1年間ありがとう。